

第6回 ティーンズ委員会大賞

フィクション部門大賞



兄の名は、ジェシカ

ジョン・ボイン／著 原田勝／訳 あすなろ書房

ノンフィクション部門大賞



ぼくが 13 人の人生を生きるには身体がたりない。

解離性同一性障害の非日常的な日常

haru／著 河出書房新社



「兄の名は、ジェシカ」

ジョン・ボイン／著 原田勝／訳 あすなろ書房

あらすじ

4歳年上のジェイソンは、サムの子の自慢の兄。ただこのごろ、少し様子が変わったみたいだ……。一人の子どもがジェンダーや性的指向という問題にどう向き合っていくのかを、わかりやすく、誠実に、時にコミカルに描く。

委員会メンバーの感想

- ・普段手に取りにくい海外の本をティーンズ大賞にすることに意味があると思った。作品にとっても魅力があるので多くの人に手に取ってほしい。
- ・LGBTQ を考えるきっかけになった。
- ・登場人物の年が近くて感情移入しやすかった。

「ぼくが 13 人の人生を生きるには

身体がたりない。

解離性同一性障害の非日常的な日常」

haru／著 河出書房新社

あらすじ

書いた記憶のないノート、買った覚えのないパーカー、街を歩けば知らない人から声が掛かり……。脳内に 13 人の人格が存在する「解離性同一性障害」の当事者に起こったリアルを描く。

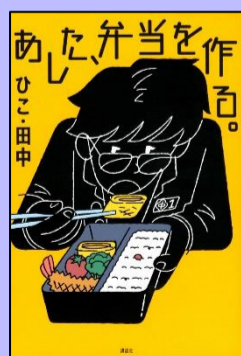


委員会メンバーの感想

- ・口調が柔らかくよみやすい。フィクション作品はかたいイメージがあったが、入り込みやすかった。
- ・多重人格という特殊なケースを描いているが、書き方が柔らかいので友達と話している感覚になった。
- ・語り手が代わると字のフォントが変わっているのが面白い。

他の候補作も素晴らしい作品が揃いました。

候補作



「あした、弁当を作る。」

ひこ・田中／著 講談社

委員会メンバーの感想

- ・反抗期で親からの自立を考える話。とても身近なテーマだと思った。
- ・友達関係・心情表現の解像度が高い。主人公の気持ちの整理がついていてスカッとした。
- ・中高生・思春期の悩みに寄り添った作品だと感じた。

「俳句部、はじめました

—さくら咲く一度っきりの今を詠む」

神野 紗希／著 岩波書店

委員会メンバーの感想

- ・俳句は好きな人だけがつくるものというイメージだったが、人生を豊かにするもの・思い出を残しておくためのものとして書かれていたので、新たな発見だった。
- ・とても読みやすく、俳句について理解を深めることができた。

候補作



ティーンズ委員会とは

小平市立図書館をティーンズ世代にもっと使ってほしいという思いから、毎年、市内在住・在学の中高生を中心に活動しています。令和 5 年度は 6 名の中高生がメンバーとなり、ティーンズ世代に読んでほしい本をティーンズ委員会大賞として選びました。

問合せ

仲町図書館 ☎042-344-7151
〒187-0042 小平市仲町 145